

Part 2

アメリカ人は 裸の book の 夢を見るか？

Part 2では、コミュニケーションの中での、aとtheの使い方について検討していきましょう。学校で習う「~の場合にはtheを付ける」というような機械的な規則をこえて、専門論文を読んだり、書いたり、正確なプレゼンテーションを行うために、aとtheを使いこなすには、どうすればよいのでしょうか？

コミュニケーションというのは、「座れ」と言う相手がいすに腰掛ける、といった簡単なレベルのものもありますし、もちろん、そのレベルだけを問題にするならば、冠詞のことを細かく気にすることはありません。

ここで問題にしているのは、もっと高度なコミュニケーションをしようとする場合、つまり「相手は、何を、どのように考えているのだろうか」を理解しようとするときのことです。この作業は窓にたとえられます。家の窓は、どこに、どんな大きさ、形状で取り付けるかによって、外の景色の見え方が違ってきます。

考えは言葉で表現されます。言葉というのは、ちょうど「思考の窓」のようなものです。北極圏に住み、まわりを雪で覆われて生活する人たちには、「雪」(の種類)を表す単語

がいくつもある、なんていうのは有名な話ですね。

日本語には、冠詞がありません。英語には、冠詞があります。この違いは、言葉の使い方や、考え方にどのような影響をおよぼすのでしょうか？

もちろん、冠詞の使い方には、それぞれの人の育った環境やくせなど、さまざまな要素がからんできますから、一概に決めつけてしまうことはできませんし、日常の言葉は本人も気づかず使っている、という面もあります。でも、私たちが外国語として、英語をもう一步正確に使いこなす、英語を理解する上では、英語の冠詞の中に込められた、さりげない意味を考えることが、とても大事になってきます。

Part 2は、そんな「英語で考える」ということに、もう一步踏みだそうとする人たちのためのパートです。

英語という窓から、世界はどのように見えるのでしょうか？

